

2025/05/04

### メッセージ：呪い-憐れみ-祝福

OIC の皆様おはようございます。  
ようこそ天の父なる神の家へ来られました。

今日、約束の地カナンへとさらに広がっていく神様に選ばれた民、イスラエルの民の歴史をみます。神様がまさに超自然的にエリコの不動で無敵の壁を崩させました。イスラエルの兵士たちは、神様の約束通り、敵に勝利してエリコの町を征服しました。イスラエル人のスパイを助けたラハブへの神様の約束も、彼女がイスラエル人の陣営で安全に導かれたことで成就しました。今、私たちはしきりに約束の地をすべて手に入れようとしている自信に満ちたヨシュアと軍隊を見いだしています。旧約聖書の「呪い」と新約聖書の「裁き」の意味を明らかにするために、私は話をさらに詳しく述べていこうと思います。私はまた、私たちの神様が常に神様の子どもたちを祝福することを望んでおられるということ全てで私たちを励ましたいです。

<ヨシュア記 6 章 24 節-27 節>を読みます。

<ヨシュア記 6 章 24 節-27 節>

**24** その間イスラエル人は、町とその中のすべてを焼き払いました。ただし、金、銀、および青銅や鉄の器具は別で、主のものとして取っておきました。

**25** こうしてヨシュアは、ラハブとその家に共にいた身内の者とを救ったのです。今もなお、その一族はイスラエル人の中に住んでいます。ヨシュアがエリコ偵察のために送り込んだ者たちを、ラハブがかくまってくれたからです。

**26** ヨシュアは、エリコを再建しようとする者には恐ろしい災いが下ると誓って言いました。その土台を築く者は長男を殺され、その門を建てる者は末息子を失うというのです。

**27** 神が共に歩まれたので、ヨシュアの名声はこの地方一帯に知れ渡りました。

### 祝福と呪い

私たちは、ラハブがイスラエル軍の二人のスパイをどのようにして守り、またヨシュアがエリコとの戦いの間、ラハブとその家族を確実に守ったかを読んだばかりです。ラハブは「イスラエル」を祝福しました。「イスラエル」を祝福したことが、<民数記 24 章(3)-9 節>の神様の約束と一直線にする、または神様の好意を得ることをラハブに確定しました。

<民数記 24 章(3)-9 節>

こう預言しました。「ベオルの子バラムが知っていることは、こうだ。私は目のよく見える者。私は神のことばを聞き、全能の神がお見せくださったものを見た。神の前にひれ伏すと、それまで見えなかったものが見えるようになった。ああ、イスラエルはやがて繁栄し、大いに祝福される。緑に覆われた谷間のように、家々は建ち並び、川辺の豊かな果樹園のように、主が植えたかぐわしいアロエのように、川のそばに植えた杉の木のように、水を吸って大きくなり、ますます領地を広げていく。彼らの王はアガグよりも偉大で、人々は口々にイスラエルのすばらしさを褒める。神は彼らをエジプトから連れ出された。イスラエルは野牛のように強く、敵対する国々をことごとく滅ぼす。敵をさんざん打ち負かし、雨あられと矢を射かける。ライオンのようにうずくまり、眠っているイスラエル。だれがその目を覚まさせられよう。イスラエルを祝福する人は幸せになり、のろう人は不幸になる。」

そしてラハブの祝福とは対照的にまたは反対に、ヨシュアはエリコを再建する者に呪いを宣告しています。エリコは恐ろしく醜悪な罪があったので、神様がエリコに二度と住まれないようにと願われました！そして言うには悲しいことに、約 530 年後、神様は従順でないイスラエル人に対して呪いを実行に移されます。このことは＜列王記 I 30 節と 34 節＞にあります。

＜列王記 I 16 章 30 節と 34 節＞

**30**ところが、アハブ王はイスラエルのすべての王の中でも群を抜いて主の前に悪を行い、その悪名は父オムリ以上でした。

**34**アハブ王の時代に、ベテル出身のヒエルはエリコを再建しました。彼は町の基礎工事をしている時に長子アビラムを失い、城門を造って町が完成した時には末子セグブを失いました。これは、ヌンの子ヨシュアによって言われていたように、エリコには主ののろいがあったからです

「ブルース牧師、イエス様が来られてからも、神様は指導者たちに呪いを宣告することを許しているのですか？」とあなたは言うかもしれません。「いいえ、神様は指導者たちに呪いを宣告することを許していません。」 私たちは 使徒パウロが＜ローマ人への手紙 12 章 14 節＞において、そのことを明確に述べているのをみます。

＜ローマ人への手紙 12 章 14 節＞

迫害されても、のろってはいけません。むしろ、神がその人を祝福してくださるように祈ってあげなさい。

私たちがイエス様の十字架を誇り、私たちの救いをイエス様に感謝するとき、私たちの罪によってイエス様を十字架につけた、私たち全ての者へのイエス様の愛を思い起こします。＜ガラテヤ人への手紙 3 章 13 節＞に書かれて示しているように、イエス様は私たちが呪われる代わりに、私たちのために呪いとなられたのです。

＜ガラテヤ人への手紙 3 章 13 節＞

しかし自分の悪い行いのために、私たちが受けなければならないはずののろいを、キリストはご自分の身に引き受け、私たちを律法ののろいから救い出してくださいました。聖書に、「木にかけられる者はだれでも、のろわれた者である」（申命 21・23）と書いてあるからです。

しかし、イエス様は十字架につける者たち、そして私たちにも言われました。

＜ルカの福音書 23 章 34 節＞

その時、イエスはこう言われました。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、自分たちが何をしているのかわかっていないのです。」兵士たちがさいころを投げて、イエスの着物を分け合うのを、

### 罪への神様の怒り - 神様の裁く権威

イエス様は罪人のために十字架上で死なれたとき、罪人への神様の愛を示されました。多くの人々は、イエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチャンでさえ、神様の正当な怒りを示す神様の権利をししばしば神様から取り上げています。多くの人々は、イエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチャンでさえ、神様はもはや人々に神様の正当な怒りを示すことはされない、と言っています。それは真実ではありません。あなた方の多くは、この真実を理解できないでいます。私もまたクリスチャンになって間もない頃はそうでした。

### 神様の怒り- イエス様が再臨されるまでこの世界へ

神様はこの罪の世界に対して神様の怒りまたは激しい怒りを示し続けています。聖書は＜ローマ人への手紙 1 章 18 節＞にこのことを私たちに語っています。

＜ローマ人への手紙 1 章 18 節＞

しかし、真理を押しつける、罪深い邪悪な人々には、神の怒りが天から下ります。

夕方のニュースを見れば、これは明らかに真実です。過去 500 年間に上回り、過去 50 年間に世界中でより深刻な地震が発生しています。

### 悔い改めずに故意に罪を犯すクリスチャンに対する神様の怒り

私たちは、エルサレムにて AD31 年、使徒ペテロが、夫婦が聖霊なる神様に嘘をつくという故意の罪を認識されたことを読みます。ペテロは彼らを呪いませんでした。しかし、ペテロは神様の裁きの「メッセンジャー」でした。ペテロは、厳しく罰せられる権利も神様も否定しませんでした。この人たちはイエスを信じている者と公言していました。彼らは「偽」のクリスチャンだったのかもしれませんが。しかし、彼らはイエスを信じている者でなければいけません。神様は、聖霊なる神様に嘘をついた悪の子らを罰することはなさらないでしょう。悪の子らはいつもそうしています！次の聖句は、イエスを信じている者のこの裁きに当てはまります。その数年後、使徒ペテロは、クリスチャンの人生における苦しみについて、＜ペテロ第一の手紙 4 章 17 節＞に書きました。

#### ＜ペテロ第一の手紙 4 章 17 節-18 節＞

17 なぜなら、さばきの時がすでに来ているからです。しかもそのさばきは、神の家（教会）から始まるのです。このように、クリスチャンの私たちでさえさばかれるのなら、神に従わない人々には、どんなに恐ろしい運命が待ち受けていることでしょう。

18 正しい人がかろうじて救われるのであれば、神を信じない人々は、いったいどんなことになるのでしょうか。

神様の怒りを放った出来事：＜使徒の働き 4 章 32 節-37 節＞で説明されているように、財産を持つ多くのクリスチャンが貧しいクリスチャンのために売却し、その売却金を使徒たちに寄付していました：

#### ＜使徒の働き 4 章 32 節-37 節＞

**32** さて、イエスを信じた人たちは、心と意思を一つにし、だれ一人財産を惜しむ者がなく、すべてのものを平等に分け合っていました。

**33** 使徒たちは主イエスの復活を力強く語り、すべての者の上に恵みがありました。

**34 ・ 35** 土地や家を持っている者はそれを売り払い、代金を使徒たちのところに持って来ました。そのお金は必要に応じてみんなに分配されたので、貧しい者は一人もいませんでした。

**36** キプロス島出身で、レビ人のヨセフもその一人です。彼はバルナバ〔慰めの子〕と呼ばれていましたが、

**37** 畑を売った代金を、「困っている人たちに」と言って、使徒たちのところへ持って来ました。

さて、私たちはサタンが嘘つきであり、欺きの長であることを知っています。誰に対しても嘘をつくクリスチャンは罪を犯しており、サタンを彼らの心と考えの中に入れていのです。彼らはまるで自分たちがまだ神様の子ではなく、悪の子であるかのように振る舞っているのです。＜ヨハネの福音書 1 章 9 節＞を読んで私たちはとても祝福されています。

#### ＜ヨハネの手紙 I 1 章 9 節＞

しかし、もし自らの罪を神に告白するなら、神は真実な方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

しかし、聖霊なる神様に嘘をつくことは、＜使徒の働き 5 章 1 節-11 節＞にあるように、二人の死によって神様の怒りを表すことになりました。

#### ＜使徒の働き 5 章 1 節-11 節＞

1 ところが一方で、こんな事件も起こりました。アナニヤという人が、妻サッピラといっしょに自分たちの土地を売ったのですが、  
2 アナニヤは、代金の一部を手もとに残しておきながら、すまして、「これで全額です」と言って使徒たちに差し出したのです。妻サッピラと示し合わせた上でのことでした。  
3 しかし、ペテロはそれを見抜いて、彼を責めました。「アナニヤよ。悪魔に心を奪われたのか。これで全額ですと言った時、あなたは、ほかのだれでもなく、聖霊ご自身を欺いたのだ。  
4 あなたの財産は、売ろうと売るまいと、あなたのものであることに変わりはないのに。たとえ売ったとしても、その代金をどれぐらい人に施すかも全く自由だった。なのに、どうしてこんなことをしたのか。あなたは私たちにではなく、神を欺いたのだ。」  
5 このことばを聞くと、アナニヤはばたきと床に倒れ、あっという間に死んでしまったのです。これを見た人々は、恐ろしさのあまり、心がすくみ上がりました。  
6 やがて青年たちが、死体を布でおおい、外に運び出して彼を葬りました。  
7 それから三時間ほどたったころでしょうか。アナニヤの妻が、何事も知らずにやって来ました。  
8 ペテロは尋ねました。「あなたがたが売った土地の代金は、これで全額ですか。」「はい、そうです。」  
9 「どうしてあなたがたは、夫婦心を合わせて聖霊を試みたのか。見なさい。あなたの夫を葬った人たちが、すぐそこまで来ている。あなたも運び出してもらうがいい。」  
10 ペテロが言い終わるか終わらないかのうちに、サッピラは床に倒れ、息が絶えました。ちょうどそこへ青年たちが入って来て、確かに死んでいるのを見届けると、その足で運び出し、夫のそばに葬りました。  
11 教会全体と、この出来事を聞いたすべての人が、非常な恐れにとらわれたことは言うまでもありません。

<使徒の働き 5 章 3 節-4 節>に、

3 しかし、ペテロはそれを見抜いて、彼を責めました。「アナニヤよ。悪魔に心を奪われたのか。これで全額ですと言った時、あなたは、ほかのだれでもなく、聖霊ご自身を欺いたのだ。  
4 あなたの財産は、売ろうと売るまいと、あなたのものであることに変わりはないのに。たとえ売ったとしても、その代金をどれぐらい人に施すかも全く自由だった。なのに、どうしてこんなことをしたのか。あなたは私たちにではなく、神を欺いたのだ。」

もし彼らが単に 10%でも 50%でも、彼らを選んだ金額を寄付したと言っていれば、それは罪ではなかったでしょう。神様は教会に、旧約聖書で罪を犯した神様の民に対する神様の怒りを表すことが消えていないことを悟らせる必要がありました。神様の赦しは告白していない罪に対する罰がないということを意味しません。さて、主であられキリストであられるイエス様は、神様の怒りを放ちます。こうして初代教会は、イエス様を弱い神様の子としてではなく、全能の神様として考えることができるようになりました。イエス様は旧約聖書と同じ力と正しい裁きを持っています。神様は、多くの人々が「この新しいユダヤでの教え-ユダヤ人が救い主イエス様を信じる」と呼んだ教えに、明確な出来事を与えなければなりません。アナニヤとサッピラの死という刑は、イエス様が同じ神、アブラハム、イサク、ヤコブの神であることを世に示しました。イエス様は同じアブラハム、イサク、ヤコブの神様の子であり、「新しい神様」の子ではありません。

私たちのごまかそうとする心の中に、思考人生において聖霊なる神様に嘘をつくかもしれないと予想しています。私たちの助け主である聖霊なる神様は、私たちがこのことを悟り、主イエス様のもとにすぐに持っていけるように助けてくださいます。しかし、アナニヤとサッピラが故意にそのようなだましを表したため、教会の長であられるイエス様は彼らにそのようなことを実行する必要がありました。これは、彼らが天国に行かなかったという意味ではありません。しかし、彼らがそこに到着したとき、多くの涙が流れたのは確かです。聖霊なる神様は、アナニヤとサッピラがサタンに自分たちの進路を指示されるだけでなく、自分たちの心を悪で満たすことをサタンに許す前に、このようなだましに陥らないように阻止しようとされたことを私たちは確信でき

ます。私たちは＜ヤコブの手紙 4 章 7 節＞に「だから、神様の前にへりくだりなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去るであろう。」という神様の約束があります。

＜ヤコブの手紙 4 章 7 節＞

ですから、神の前に謙遜になりなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。悪魔はしっぽを巻いて逃げ出すでしょう。

私がここで申し上げたいポイントは、神様に選ばれた人々への神様の無条件の愛がのぞむためには、いくつかの限界または条件があるということです。愛のうちにイエス様のそばを歩むことは、恐れを聖なる崇拜となるようにし、私たちがするすべてに影響を及ぼします。イエス様は私たちを「イエス様の友人」と呼び続けてくださいます。しかし、イエス様は愛に満ちた創造主であられ、私たちはイエス様の被造物であることを覚えていなければいけません。神様の怒りは冗談ではありません。神様の怒りは、神様の怒りを放たれる神様を私たちが裁くことができるものではありません！神様は私たちが人々を愛する以上に人々を愛しておられます！神様は人々のために神様の御子をお与えになられました！

**罪の憐れみを願い求めるー モーセ**

**旧約聖書で裁きではなく与えられた憐れみ**

クリスチャンは、罪人やイエス様から離れていくクリスチャンのために神様に願い求めることができます。イスラエルの民がエジプトからの神、金の子牛を拝むという非常に不快な偶像崇拜を犯した直後に、モーセが神様に憐れみを示すよう説得したところが私はとてもいいと思います。私たちはこの出来事を＜出エジプト 32 章 7 節-11 節＞で読みます。

＜出エジプト 32 章 7 節-11 節＞

**7** それを知った主は、モーセに命じました。「急いで山を下りなさい。あなたがエジプトから連れ出した者たちが、かつてなことを始めている。目に余る有様だ。

**8** わたしのおきてをもう捨ててしまったのか。子牛の像を造って拝み、それにいけにえまでささげ、『これこそ、イスラエル人をエジプトから連れ出した神だ』と言っている。」

**9** 主はまたモーセに言いました。「イスラエル人がどんなに強情で恩知らずの民か、よくわかった。

**10** もう容赦はしない。こうなったら彼らを滅ぼし尽くす。じゃまをしてはならない。モーセよ、あの者たちの代わりに、あなたを大きな国民にしよう。」

**11** しかし、モーセは必死で嘆願しました。「主よ、あなたご自身があれほど大きなお力を示し、すばらしい奇跡をもって、ご自分の民をエジプトから救い出されたではありませんか。その民に、なぜそのようなお怒りになるのでしょうか。」

そして＜出エジプト記 32 章 14 節＞

すると、主は思い直し、彼らへの制裁を見合わせることにしました。

神様にイスラエルの民に憐れみを示してくださいというモーセの説得が神様の意思を変えました。モーセは主との論争に勝ちました！もちろん、私たちは皆、神様が常に憐れみを示し、憐れみを与えたいと願っておられることを知っているべきですが、神様は唯一の賢明な神様であられます。憐れみは主のものであり、他人のための私たちの選択ではありません。

**新約聖書で神様によって実行された裁き**

それから 3,000 年先のことですが、使徒ペテロは、神様がアナニヤとサツピラに対する怒りの手を緩められないことを知っていました。アナニヤとサツピラの心の判断または評価は明確なようです。ペテロが聖霊なる神様によって語ったように、

ペテロは言いました。「アナニヤよ。悪魔に心を奪われたのか。これで全額ですと言った時、あなたは、ほかのだれでもなく、聖霊ご自身を欺いたのだ。あなたの財産は、売ろうと売るまいと、あなたのものであることに変わりはないのに。」

このことは、ペテロによって他のイエス様を信じている者にアナニヤとサツピラの罪が明らかにされた時、二人ともパタンと倒れて死んでしまう結果となりました。神様は何かを明確にする必要がありました。イエス様を信じる者は、イエス様を褒めたたえる敬虔な敬意を含め、イエス様への彼らの愛において自由を持っています。

### 異文化間で真実を伝えること

私は「呪い」という言葉が、一部の日本人に与える影響を学んだのは遅すぎました。2005年、Dorothy と私は九州の小さな漁村に友人を訪ねていました。「Reversing The Curse（呪いを無効にする）」というタイトルのレッドソックスのDVDの英訳版を贈っていました。これは、2004年にワールドシリーズで優勝したチーム11人のイエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチャンの証しです。レッドソックスがワールドシリーズで「今までにない」敗北は86年ぶりでした。その呪いは、ベーブ・ルースの死んだ霊によるものでした。レッドソックスは1900年代にニューヨーク・ヤンキースへのトレードでベーブ・ルースを軽んじていました。悪魔は人々に呪いを恐れさせ、またそのような恐れを助長するように出来事を変える力を持っています。これは真実です。しかし、クリスチャンは、＜ヨハネの手紙Ⅰ 4章4節＞のように、そのような呪いの全てに勝っています。

### ＜ヨハネの手紙Ⅰ 4章4節＞

愛する子どもたち。あなたがたは神の側につく者として、キリストに敵対する者と戦い、すでに勝利を収めてきました。それは、あなたがたのうちに、この世にいるどんな悪い教師よりも、はるかに強い方がおられたからです。

九州の遠隔のその漁村で、私は神様に、日本人は母国語でこのDVDを見るべきだと訴えました。私は別のDVDを配るために50メートルほど歩きました。聖霊なる神様が私のところに来られて、私は凍りつきました……！「主よ何ですか？」それから約半年後、神様は私の質問と訴えの祈りに答えてくださいました。「どのように？」小型犬が私のレーサー自転車の前を走りました。私は直感的にブレーキをかけました。そのため、私は宙を舞い、セメントの自転車道に飛び出しました。その結果、腰骨が粉々に砕けました。レントゲンの結果、粉々になった骨が左足の主動脈の横の神経を切断していたため、死まであとわずか1センチでした。私は大手術の後、10日間入院しました。そしてそれから、私はリハビリ病院で歩くことができず4週間過ごしました。でも、私は生き延びました！（あなたはご覧になっています）はい、そして、私は歩けます。私は保険金を受け取り、すぐに「Reversing The Curse（呪いを無効にする）」英語版DVDの日本語翻訳にするためにお金を払い始めました。

そして、神様の御手の力のさらなる奇跡。私の最初の翻訳は、日本で銀行の翻訳をしていたノンクリスチャンの友人たちでした。私がノンクリスチャンの友人たちと初めて翻訳契約を結んだとき、イエス様が介入してくださいました。私は彼らに英語の原稿を渡すと言おうとしていました。イエス様の聖霊なる神様がその場でノーとささやきました。これにはさらに費用がかかりました。それから私は、Wycliffe 聖書翻訳者の宣教師の友人が私に教えてくれたことを悟りました。ノンクリスチャンに多くの仕事をさせ、福音を「聞かせる」ようにしなさい。ノンクリスチャンに原稿を渡さないということは、翻訳作業の前にクリスチャンの証しを見聞きするということを意味します。だから私は、彼らが要求した1800ドルという費用に同意しました。

しかし次に、私はクリスチャンに彼らの翻訳をチェックしてもらいたいと思いました。奇跡的に、私の引退した宣教師の友人がフリーマーケットで大企業の翻訳をしていた日本人クリスチャ

ンを見つけました。私は 300 キロの道のりを運転して彼を訪ねました。彼は次の翻訳を無料で引き受けてくれました。

そして、東京の *Athletes in Action* のプロのクリスチャン翻訳者に彼の作品をメールで送りました。*Athletes in Action* は、2005 年に彼らが作成した英語版の翻訳を私に許可してくれました。次の翻訳は、東京にいる日本人のキリスト姉妹がしてくださいました。しかし、レッドソックスの吹き替えのために彼女の翻訳を音声スタジオに公開する直前、娘の Therese が「待って、パパ！」と言いました。彼女は、日本人の男性は日本人の女性とは違う言葉をたくさん持っていることを私に思い出させました。東京にいる日本人のキリストの姉妹を怒らせる危険を冒しましたが、彼女は私が正しいことを確認しました。彼女はまた、何人かの男性に日本の「野球」スラングをいくつかのパートで尋ねると言っていました！そして、テキサスで「DVD にデーターを焼く」ために、日本語吹き替え付きの DVD をメールに添付して最終的に送りました。日本語に翻訳されたこれらの DVD の 6 万枚のコピーができたことは、本当に素晴らしいことでした。2008 年春、レッドソックスが東京で開幕を迎えたとき、東京では何千枚もの DVD が配られました。私は 2015 年に岩国の小さな教会でさえ何枚かを見つけました。

しかし、最終版の表紙には漢字で「Reversing The Curse（呪いを無効にする）」と印刷されていました！「CURSE（呪い）」という言葉は、多くの日本人を怖がらせ遠ざけました。このことに気づくのが遅すぎて、印刷を変えることができませんでした。日本人にとって野球はとても大切だから、多くの人が DVD を手元に残し、この素晴らしい勝利を鑑賞したと信頼しています。その DVD を鑑賞した人は誰でも、2004 年レッドソックスのクリスチャンたちの日本語での証しを聞きました。

だから私は今日、日本の友人たちに、それを聞いた人たちを傷つけずに真理を説くことがいかに難しいかを知ってもらうために、このように言うのです。「呪い」という漢字は、多くの日本人に恐怖の反応を呼び起こします。どんなクリスチャンに対しても、とどまれる呪いはありません。しかし、この DVD はノンクリスチャンの伝道のためのものです。神様ご自身による呪いだけが神様の子に適用できます。エリコに関するヨシュアの呪いは神様からのものでした。

アナニヤとサッピラは、肉体の死によって神様から罰せられました。もし彼らがイエス様を愛していたなら、天国への霊的な命を保っていました。＜テサロニケ人への手紙 I 5 章 9 節＞にある神様の言葉によって、私たちは励まされます。

＜テサロニケ人への手紙 I 5 章 9 節＞

神は、怒りを向けるために私たちをお選びになったのではなく、主イエス・キリストによって救うために選んでくださったのです。

### あなたの敵を愛しなさい

クリスチャンは敵を愛するように命じられています。ですから、クリスチャンは、＜ローマ人への手紙 12 章 14 節＞のように、だれをも呪ってはならないのです。

＜ローマ人への手紙 12 章 14 節＞

迫害されても、のろってはいけません。むしろ、神がその人を祝福してくださるよう祈ってあげなさい。

私たちは、十字架上でご自身を殺される人々を赦された主イエス様の模範に従うのです。しかし、私たちは神様から権威を奪うことはできません。私たちは近くても遠くても死や災難を目の当たりにしたとき、神様の子として、ノンクリスチャンたちがよくするように、私たちは神様を裁いてはなりません。ノンクリスチャンたちは、罪の悔い改めにつながる神様への畏れを避けるためにこのようなことをするのです。聖霊なる神様によって奮い立たされた使徒パウロは、「神様の選ぶ権利」について書きました。これは＜ローマ人への手紙 9 章 15 節＞です。

<ローマ人への手紙 9 章 15 節>

**15**神はモーセにこう言われました。「わたしは、恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ。」

戦いにおける罪と失敗！

**アイ、イスラエルの軍を破る**

<ヨシュア記 7 章 1 節>

しかし、イスラエル人の中に罪が潜んでいました。主にささげるもの以外は滅ぼし尽くせというヨシュアの命令が、実は守られていなかったのです。ユダ族のカルミの子で、祖父はザブディ、曾祖父がゼラフであるアカンが、戦利品の一部をふところに入れていました。そのために、主の激しい怒りがイスラエルの民に下ったのです。

ソロモンが<伝道の書 1 章 9 節-10 節>で述べているように。

<伝道の書 1 章 (8) 9 節-10 (11) 節>

**8・9・10・11** 何もかも、くり返すばかりで、あきあきする。 どれだけ見ても満足できない。 どれだけ聞いても、もうこれで良いということはない。 歴史はくり返すだけ。 ほんとうに新しいものなど何もない。 新しいように見えても、必ず前例があるか、すでに言い古されたものです。何か、「これは新しいものだ」と指摘できるものがあるでしょうか。それがずっと昔になかったと、どうしてわかるのですか。私たちは、先の時代にどんなことが起こったのか忘れてしまいます。そればかりか、のちの時代になれば、私たちが今していることを、だれも覚えていないのです。

もちろん、現代のテクノロジーや世界中で見られる科学の進歩は新しいものです。しかし、人間は基本的に罪深いことは同じです。「伝道者の書」の形式は、かつて生きた最も賢い人物の書物です。ソロモンは神様が人生を支配したのではなく、人間の人生に限定した真理を書きました。ソロモンが言った「太陽の下に新しいものは何もない」ということは、3,000 年の時を隔てた 2 つの出来事の類似性に見られます。3,000 年の時を隔てた 2 つの出来事はアカンの悪行であり、アナニヤとサツピラの悪行です！私の次回のメッセージで、これらの悪い行いに対する同様の結果を見ることにしましょう。しかし今日は、イスラエルの大胆不敵なリーダー、ヨシュアに焦点を当てたいと思います。

次の<ヨシュア記 7 章 2 節-4 節>を読みます。

<ヨシュア記 7 章 2 節-5 節>

**2** エリコ陥落後すぐに、ヨシュアはまた、ベテル東方の町アイに数人の偵察者を送り込みました。

**3** 彼らは戻って報告しました。「小さな町ですから、二、三千人もいれば十分です。すぐに占領できるでしょう。全員で攻めるまでもありません。」

**4** そこで、およそ三千の兵がアイに送り込まれました。ところが、彼らはさんざんに痛めつけられたのです。

**5** 戦闘中に三十六人ほどが殺されたうえ、大ぜいの兵士がアイの住民に石切り場まで追われ、次々に倒れました。イスラエル軍は、この敗北ですっかりおびえてしまいました。

今、私たちはイスラエルの兵士たちは、エリコへの坂道を恐る恐る駆け上ったわけではないのに、坂道を下って退却しているのに気づきます。なぜでしょうか？まあ、人間的な結果だけのための人間的な努力は、相撲取り同士のように相手の兵士の大きさを計算するでしょう。私たちは各軍のスキルセット（複数のスキルが組み合わさったもの）を比較するかもしれません。これは普通の野球選手と大谷翔平を比べるようなものです。しかし、イスラエルは神様の民の神様の国です。イスラエルに勝利を与えたのは、イスラエルの能力ではなく、主なる神様の力でした。最後に行った戦いで、神様はエリコ軍の最大の武器である「不動の壁」を超自然的に取り除けられました。



アイとの闘いで明白な敗北の背後には、罪があるに違いありません。「神様は現れませんでした！」

私たちは、このアイでの敗北の原因となった罪が何かを知っています。当時、ヨシュアは知りませんでした！＜ヨシュア記 7 章 1 節＞に言っている、何年も後にヨシュアによって書かれた歴史を私たちは読みます。

＜ヨシュア記 7 章 1 節＞

**7-1** しかし、イスラエル人の中に罪が潜んでいました。主にささげるもの以外は滅ぼし尽くせというヨシュアの命令が、実は守られていなかったのです。ユダ族のカルミの子で、祖父はザブデイ、曾祖父がゼラフであるアカンが、戦利品の一部をふところに入れていました。そのために、主の激しい怒りがイスラエルの民に下ったのです。

これはヨシュアにとって、イスラエルの指導者としての最初の敗北です。だから、アイでの敗北の後、ヨシュアは失敗を自分のせいにして、神様が言われた、神様が「思った」ことを疑っています！

### ヨシュアの崩壊

＜ヨシュア記 7 章 6 節-9 節＞

**6** ヨシュアと長老たちは心を痛み、衣服を裂き、頭にちりをかぶって、夕方まで主の箱の前にひれ伏しました。

**7** ヨシュアは主に向かって叫びました。「ああ主よ。エモリ人の手によって私たちを滅ぼすおつもりなら、どうして私たちにヨルダン川を渡らせたのですか。どうして、すでに得ていたもので満足させてくださらなかったのですか。こんなことになるくらいなら、ヨルダン川の東側にとどまっていればよかったのです。

**8** ああ主よ。敵に背を見せてしまった今となっては、どうすることもできません。

**9** カナン人や近隣の民族がこれを聞けば、攻めて来るに決まっています。もはや全滅です。そうなれば、あなたの偉大な御名はどうなるのでしょうか。」

ヨシュアと長老たちは、神様が勝利を与えてくださらなかったことを知っていました。神様の超自然的な力は、すべての兵士の剣と戦いの中にありました。そうです！ 私たちが映画やアニメで目にするスーパーヒーローは、実際のイスラエルの兵士や英雄が戦いの中で行ってきたことでした。神様は彼らに抵抗する人間の能力よりも、イスラエルに力を与えることを選びました。ヨシュアから約 350 年後の紀元前 1075 年にイスラエルの裁き主となったサムソンは、神様からそのような力を持っていました。

＜士師記 15 章 14 節-15 節＞を読みます。

＜士師記 15 章 14 節-15 節＞

**14** 一行がサムソンを捕らえてレヒに着くと、ペリシテ人は歓声を上げました。主の力がサムソンに注がれたのは、その時です。綱は、まるで糸のようにぷつぷつと切れ、手首から解けました。

**15** すかさずサムソンは、そこに転がっていたろばのあご骨を拾い上げ、あっという間に千人のペリシテ人を打ち殺しました。

＜ヨシュア記 7 章 7 節＞のように、ヨシュアは本当に落胆しています。

＜ヨシュア記 7 章 7 節＞

**7** ヨシュアは主に向かって叫びました。「ああ主よ。エモリ人の手によって私たちを滅ぼすおつもりなら、どうして私たちにヨルダン川を渡らせたのですか。どうして、すでに得ていたもので満

足させてくださらなかったのですか。こんなことになるくらいなら、ヨルダン川の東側にとどまっていればよかったのです。

聖書は、神様に選ばれた人々や指導者の弱さを隠しません。ヨシュアは、イスラエルの指導者となるようにとの神様の呼びかけを、＜ヨシュア記 1 章 6 節＞で初めて聞きました。

＜ヨシュア記 1 章 6 節＞

ヨシュアよ、雄々しく立ち、勇気を出しなさい。りっぱな指導者になるのだ。わたしが先祖に与えると約束した地を全部、占領しなさい。

主はヨシュアへの呼びかけの中で、「強くあれ、勇気を持て」と三度繰り返されました。また、神様が、私が彼らの先祖に与えると誓った土地をすべて所有するようこの民を導くことを、ヨシュアは「できるだろうではなく」「するだろう」と言われている預言されたことにも注目していただきたいです。そして＜ヨシュア記 1 章 9 節＞に

＜ヨシュア記 1 章 9 節＞

さあ、勇気を出しなさい。恐れったり迷ったりしてはならない。どこへ行っても、あなたの神であるわたしがついていく。」

神様はご自身の民のために指導者を選び、召命されます。彼らはみな不完全で、とても人間的です。アイのように災難に見舞われると、彼らはしばしば、指導者としての人生で神様が約束してくださったことを忘れてしまいます。ヨシュアは知っていました。

＜ヨシュア記 1 章 9 節＞

さあ、勇気を出しなさい。恐れったり迷ったりしてはならない。どこへ行っても、あなたの神であるわたしがついていく。」

しかし、アイの戦いでは＜ヨシュア記 1 章 9 節＞のことは起こりませんでした。ヨシュアはある程度自分を責めていました。主はまだヨシュアとともにおられました。イスラエル軍とともにおられたわけではありません！私たちは災難や誘惑が神様の御言葉を私たちに忘れさせてしまうことを決してしたくありません。エバは蛇になったサタンが彼女の記憶に疑いの種を植え付けるのを聞き続けました。

＜創世記 3 章 1 節＞

さて、主なる神が造ったものの中で、蛇が最も賢い動物でした。蛇は女に、ことば巧みに話を持ちかけました。「ほんとうにそのとおりなんですかね？ ほかでもない、園の果実はどれも食べてはいけないという話ですよ。神様は、これっぽっちも食べてはならないと言ったってじゃないですか。」

私たちもまた、とてもとても人間です。＜コリント人への手紙Ⅱ 4 章 7 節＞で言っているように、私たちは信仰に強くありながら、謙虚であり続けるべきです。

＜コリント人への手紙Ⅱ 4 章 7 節＞

このすばらしい宝〔私たちのうちに輝いている光と力〕は、こわれやすい器〔私たちの弱い肉体〕の中に入っています。私たちのうちにある栄光に満ちた力は、神に与えられたものであって、私たち自身から出たものでないことは明らかです。

次に、私たちはヨシュアが優秀な生徒であったことがわかります！ヨシュアは、師であり師匠であるモーセが教えてくれたことを思い出したからです。モーセが、イスラエルの民が金の子牛を拝むという偶像崇拜の頑固な非常に不快な罪のために、イスラエル全土を滅ぼさないように主の

心を変えさせたことを思い出してください。私たちはこの出来事を＜出エジプト記 32 章 11 節＞に見ます。

＜出エジプト記 32 章 11 節＞

しかし、モーセは必死で嘆願しました。「主よ、あなたご自身があれほど大きなお力を示し、すばらしい奇跡をもって、ご自分の民をエジプトから救い出されたではありませんか。その民に、なぜそのようにお怒りになるのでしょうか。

そこでモーセは、地上の人類に対する神様の評判に訴えました。モーセはまた、信仰の父アブラハムとその息子たちとの神様の誓いを神様に思い出させました。モーセは＜出エジプト記 32 章 12 節-13 節＞で言いました。

＜出エジプト記 32 章 12 節-13 節＞

**12** そのようなことをなさったら、エジプト人は何と言うでしょう。『それ見ろ。イスラエルの神は彼らをだまして山へ連れ出したのだ。その証拠に、彼らは一人残らず殺されてしまった』とあざけるかもしれません。どうぞ怒りを収めてください。そんな恐ろしいさばきは思いとどまってください。

**13** あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエル（ヤコブ）に約束されたことを思い出していただきたいのです。『あなたの子孫を空の星のように増やそう。約束の地をすべてあなたの子孫に与え、永遠に受け継がせよう。』こう誓われたではありませんか。」

さて、ヨシュアは、＜ヨシュア記 7 章 9 節＞で、モーセが訴えたように神様の名声を訴えました。

＜ヨシュア記 7 章 9 節＞

**9** カナン人や近隣の民族がこれを聞けば、攻めて来るに決まっています。もはや全滅です。そうなれば、あなたの偉大な御名はどうなるのでしょうか。」

一見、神様は尊大に見えます。そうではなく、神様として、神様は時間そのものよりも前に存在した完全な神様としての権利があらわれます。しかし、人への神様の評判が人類の将来の救いにとって重要であったことを理解するのに、これらの節を黙想するのに多くかかりません。特に、『わたしはあなたの子孫を天の星のように多くしよう』というモーセの訴えを見るときです。神様は、これがイエス様の十字架への道であり、多くの人々の救いであり、全地上にご自身の教会を創造する道であったことを知っておられました。

**イエス様の栄光のために生きる新約聖書 -クリスチャンへの神様の憐れみ**

イエス様が私たちをイエス様が流された血潮で贖ってくださったので、神様はクリスチャンに特別な特権を与えています。特にとりわけ重要なものでクリスチャンの特別な特権は祈りです。神様の子として、私たちは神様の臨在と慈しみの座に自由に入ることができます。このように、私たちは、自分が本当に聞き入れられることを信仰で祈るよう、大いに励まされています。

＜ヘブル人への手紙 4 章 15 節-16 節＞

**15** この大祭司は私たちと同じ試練に会われたので、人間の弱さをよく知っておられ、ただの一度も、誘惑に負けて罪を犯したことはありません。

**16** ですから躊躇せず、神の御座に近づいてあわれみを受け、時にかなって与えられる恵みをいただこうではありませんか。

神様の臨在に自由に入れる神様の子供であっても、イエス様が私たちにイエス様の義を授けてくださったことを覚えていなければいけません。これによって私たちは受け入れられ、父なる神様に喜ばれるのです。だからモーセやヨシュアのように、私たちは、地上の神様の御名を守って

ださるよう、大胆に神様にお願いするのです。そうです。新約聖書のイエス様を信じている者は、地上のイエス様に栄光を与えるために、神様の力強い行いを大胆に求めることができます。イエス様は<ヨハネの福音書 14 章 12 節-14 節>で言われました。

<ヨハネの福音書 14 章 12 節-14 節>

**12** よく言っておきます。わたしを信じる者は、わたしと同じわざを行うばかりか、それよりもさらに大きなわざを行うのです。わたしが父のもとに行くからです。

**13** わたしの名によって、父に願い求めなさい。どんなことでもかなえてあげましょう。父が子によってほめたたえられるためです。

**14** わたしの名によって願い求めることは、必ずかなえられるのです。

クリスチャンが成熟するにつれて、彼らは地上でイエス様に栄光を帰したいという願望に夢中にさせられることを学び、天の父なる神様が御子において栄光を与えられるために私たちの役割を持ちます。

私たちクリスチャンは、アブラハムが空の見える星を見つめながら神様の心に見た、きらめく星なのです。 私たちがイエス様の御名によって祈るたびに、神様はモーセやヨシュアにされたように、私たちに答えようと行動されます。イエス様の御名は、今ここで最高に価値があります。私たちはただ、地上のイエス様に栄光を帰すために、不可能なことでさえも神様に求めていることに気づきます。

私たちを偉大にするために神様がいかにご自身を低くしておられるかを考えれば、生と死の出来事における神様の判断に疑問を抱く前に、私たちは二度考えるかもしれません。神様は、人類が偽りの神々、特に人間の自分自身を崇拝していた歴史上の多くの場所で、人類を滅ぼすことができました。もしそうであったとしても、神様は聖なるお方であり、罪のないお方です。神様は、御子イエス様との関係を通して神様に誉れを与えるあらゆる部族や国民から多くの人々を救うことを選ばれます。<ヨハネの手紙 I 4 章 8 節>で聖書は言っています。

<ヨハネの手紙 I 4 章 8 節>

反対に、愛のない人に神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

愛であられる唯一のお方なる神様だけが、いつ呪い、いつ祝福し、いつ憐れみを与えられるかを選択するそのような権限を持つべきであることを覚えていなければなりません。

祈りましょう